

## 2026 年度シラバス

科目分類/Subject Categories			
学部等/Faculty	/工芸科学部/工芸科学部 : /School of Science and Technology/School of Science and Technology	今年度開講/Availability	/有/有 : /Available/Available
学域等/Field	/全学共通科目/全学共通科目 : /Program-wide Subjects/Program-wide Subjects	年次/Year	/1年次/2年次 : /1st Year/2nd Year
課程等/Program	/基盤教養科目/人間教養科目(2023年度以前入学者) : /Liberal Arts/Liberal Arts(Course for students enrolled before 2023 academic year)	学期/Semester	/前学期/前学期 : /First term/First term
分類/Category	//工芸科学教養科目 : //Science and Technology Liberal Arts	曜日時限/Day & Period	/集中 : /Intensive

科目情報/Course Information				
時間割番号 /Timetable Number	10319901			
科目番号 /Course Number	10360008			
単位数/Credits	1			
授業形態 /Course Type	講義・演習 : Lecture/Practicum			
クラス/Class				
授業科目名 /Course Title	資料で京都（リベラルアーツ・ゼミナール） : Studies at the Kyoto Institute, Library and Archive ( Liberal Arts Seminar)			
担当教員名 / Instructor(s)	/(藤本 仁文) : /FUJIMOTO Hitofumi			
その他/Other	インターンシップ実施 科目 /Internship	国際科学技術コース提供 科目 /IGP	PBL 実施科目 /Project Based Learning	DX 活用科目 /ICT Usage in Learning
	実務経験のある教員による 科目 /Practical Teacher	○	代表教員は郡山城史跡・柳沢文庫保存会で学芸員に従事し、分担教員の三人は京都学・歴史館の現役職員で、分担教員の一人は裏千家の今日庵文庫の現役司書である。	
科目ナンバリング /Numbering Code				

授業の目的・概要 /Objectives and Outline of the Course	
日	リレー講義・ゼミにより、京都学・歴史館所蔵の古典籍・歴史資料・絵図・指図・行政文書などを使用して、これまで身に付けた知識について、資料を実際に見たり触れたりしながら、より深める。なお教室は歴史館を使用し、同館職員も授業の一部を担当する。
英	

学習の到達目標 /Learning Objectives	
日	京都府立京都学・歴史館所蔵の古典籍や資料、講師の専門的知識・経験を活かして、少人数でのアクティブラーニングを行う。資料を用いて自分自身で調べる能力の養成を目指す。
英	

学習目標の達成度の評価基準 / Fulfillment of Course Goals (JABEE 関連科目のみ)	
日	
英	

授業計画項目 /Course Plan	
日	
英	

No.		項目 Topics	内容 Content
1	日	第 1 回	ガイダンス、授業の進め方の説明
	英		
2	日	第 2 回	京都学・歴彩館へようこそ 一所蔵資料の概要と活用法ー
	英		
3	日	第 3 回	京都府行政文書の 150 年
	英		
4	日	第 4 回	歴彩館所蔵資料からみる京都の祭礼
	英		
5	日	第 5 回	近世日中の出版文化
	英		
6	日	第 6 回	歴彩館所蔵近世版本資料にみる茶の湯の世界
	英		
7	日	第 7 回	図像資料にみる平安京・近世京都
	英		
8	日	第 8 回	古文書でみる朝廷の儀式
	英		
9	日		
	英		
10	日		
	英		
11	日		
	英		
12	日		
	英		
13	日		
	英		
14	日		
	英		
15	日		
	英		

## 履修条件 /Prerequisite(s)

日	
英	

## 授業時間外学習（予習・復習等） /Required study time, Preparation and review

日	<p>授業時間中は主に歴彩館所蔵史料を閲覧するため、疑問に思った箇所やさらに深く知りたい箇所に関しては、辞典類・関係書籍・資料などを使って確認したり調べること。また本授業で学んだ資料検索方法を、大学図書館等の利用やレポート、論文執筆に役立てること。</p> <p>本講義に対しては、36 時間の予復習に充てる自己学習時間が必要である。</p>
英	

## 教科書／参考書 /Textbooks/Reference Books

日	<p>テキスト：授業においてプリント等を適宜配布する。</p> <p>参考書：授業において適宜指示、紹介する。</p>
英	

## 成績評価の方法及び基準 /Grading Policy

日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各担当者の提示課題から 1 つを選んでレポートを作成（原稿用紙 2 枚程度）する。</li> <li>・出席が全体の 6 割に達しない者は、成績評価の対象としない。</li> </ul>
---	---

英	
留意事項等 /Point to consider	
日	博物館で古文書担当の学芸員として勤務した経験を有する教員が、担当講師と連携しつつ歴彩館所蔵資料の扱い方や活用方法を解説する。
英	